



女性消防団をご存知でしょうか。
全国各地で結成されていますが、当別町では平成7年に結成されました。現在、坂上悦子^{さん}を部長に、11名の団員が、一人暮らし高齢者の防火査察や町民への火災予防の啓発活動を行い、救命講習や各種消防事業に参加して、女性ならではのしなやかさを生かした活動を続けています。



「紺の制服と制帽が気持ちを引き締め、意識を高めてくれます。今、秋の火災予防運動期間中で一人暮らしの高齢者宅をお伺いして防火査察を行っています。団員手作りの防火マスコットも一緒にお持ちして喜んでいただけると本当にうれしいですね」と優しく笑う部長の坂上^{さん}。

当別女性消防団は、平成7年7月に公募による10名で結成されました。「町の広報誌で女性消防団員の募集を見たとき、これだ!と思いました。ちょうど、子育てが一段落して何かやりたいと思っていた時期でした。結婚前に実家が火事に遭い消防の方に大変お世話になりました。兄も消防団員をしていたので消防活動を身近に感じていました」という坂上^{さん}は「近所に住むおばあちゃんが腰を痛めて寝たきりになり、私が女性消防団だと知った家族の方がどうしたものかと相談に来られたんです。早速、消防に相談して救急車で搬送してもらいました。消防団であることを自覚したできごとでした」と振り返ります。

結成当初は何もわからず不安も多かったという同団の団員ほとんどが、仕事を持ちながらもやり繰りして時間を作り、現在は11名で活動、月1回の訓練日には救命や予防講習など団員の意識や資質向上に励み、今では全員が上級救命講習を修了しています。

毎年、春と秋に行う一人暮らし高齢者の防火査察には、何か心のこもった物をと、団員手作りの品を届ける活動も続けています。今までにミニまといや写真立て、フキンなどを贈って今年は、ふくろうのマスコットを手作りして「火災に気をつけて、お元気で」の気持ちと共に170件を回りま

す。「署員と一緒に回っているんですが、女性と一緒にということで安心してお話してくださる方や以前に差し上げたものを大切に飾ってくださる方もいて、やって良かったと思えます」と、女性消防団ならではの活動につながっているようです。

また、1月の出初め式、6月の訓練大会に女性消防団も参加し、規律ある動きの中にソフトな雰囲気をももたせています。今年の訓練大会での訓練披露には、女性消防団としてポンプ操法などを繰り上げ、訓練の成果を発揮しました。

「女性消防団は、火災現場に行って作業をすることはしませんが、こういう訓練に参加することで団員としての意識も高まり団の結束も強くなると思います。平成12年に札幌市で全国女性消防団活性化大会があり、運営委員として参加しました。3,000人が集まる大きな大会でしたが大会宣言を述べたり、各地の団員と交流できたことがいい経験になったと感じています。今までは与えられることをこなしてきましたが、来年で10年を迎えるので、これからは自分たちが考える活動を加えられるよう団員と共に頑張りたいですね」と意欲を見せる坂上^{さん}。これからも、女性消防団ならではのアイディアで火災の予防啓発を展開してくれることでしょう。

